

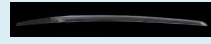
歴史博物館 展示替えの見どころ

中世

朝倉氏や一向一揆勢力による支配から、織田信長、そして柴田勝家の時代へと移り変わる越前の戦国時代の政治・経済を紹介するとともに、越前焼や笏谷石などの特産品も紹介。

○中世の越前

朝倉氏の本拠地として一乗谷が繁栄していたが、後に信長に敗れ、また一向宗が一時的に大きな勢力を持っていた戦国時代の越前の興亡を紹介。



脇指（銘）越前一乗住兼則（重要刀剣）
室町後期
一乗谷に美濃から移住した優れた刀工が居たことを示す



朝倉始末記
成立年代不明
足利義昭が朝倉館に御成りするなど、戦国大名としての朝倉氏の地位を示す

○北庄から福井へ

朝倉氏に代わり越前を任された柴田勝家とその本拠地とした北庄の繁栄と、宣教師フロイスが北庄を訪問し、勝家と会談したことなど、近世への序章としての戦国末期の福井の様子を紹介。



1579～81年イエズス会宣教師報告（複製）
1584年
フロイスと柴田勝家の会談により、北庄に教会を建てることなどが話し合われている。



織田信長朱印状
天正2年
北庄のほかは一乗、三国、端郷に輸入品や絹織物を扱う商人が居たことがわかる

近世

越前における城下町や村で暮らす人々の生活や、北陸道や北前船による交通・流通の発展、夢楽洞絵馬にみる越前の近世文化を紹介。

○城下町のくらし

福井城下絵図や、福井城跡の発掘調査で見つかった多数の出土品などから、城下町の武士や町人のくらしを紹介。



福井城下絵図
正徳4年（1714）



藩札
江戸中期～幕末期
越前各藩の領内で通用する紙幣。

○越前の村むら

平野・山間・海辺に1500ほどあった越前の村むらのようすを、国絵図・村絵図や古文書、高札などから解説。



越前国絵図
元文年間（1736～1740）



南条郡温谷村村方文書
江戸中期～幕末期
庄屋の家に蓄積された「村の公文書」から山間部の村を紹介。

○街道と海運

越前の街道沿いに設置された宿駅や、北前船海運について解説。あわせて、江戸時代に流行した街道の旅に関する道具などを紹介。



福井江戸往還図屏風
江戸後期
福井から江戸までの道中の宿駅を描いた屏風。



駅路の鈴
安政5年（1858）
越前の北陸道の宿駅（細呂木～板取）を詳しく記した道中図。